

第 6 5 回岡山県美容技術コンクール 競 技 要 綱

【中振袖着付競技の部】（ボディ使用）

☆ 日 時 令和 7 年 6 月 1 6 日（月）

選手受付 8：10～9：00

※時間厳守（遅れると受付ができない場合があります）

☆ 会 場 岡山市中区門田本町4丁目1番16号

岡山国際ホテル

☆ 全競技に関する注意事項

- ①出場者は受付を済ませ必ず 9 時までに選手控室にて待機すること。
- ②出場取消しについては、特別な事情がない限り、1 週間前までに 組合事務所（Tel 086-222-3221）に連絡のこと。
- ③エントリー料は如何なる理由があろうとも返金できません。
- ④参加賞（T シャツ）及び、お弁当はありません。
- ⑤各種目、エントリー者数が 3 名未満の場合、競技種目の除外等の規定を設けています。
- ⑥各種目、エントリー者数が 6 名未満の場合、優勝賞金の授与はありません。トロフィー及び賞状のみの授与となります。
- ⑦業務の都合上、電話でのお問い合わせ、質問等はお受けできません。ご質問等は、FAX 及び、下記アドレスの E メールでお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ> FAX：086-223-7455

Email：info@ba-okayama.or.jp

☆ 全競技に関する禁止事項

- ①選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は白いもの、下は黒または濃紺のスカートまたはスラックスとし、帽子は禁止する。靴はヒールの低いものとする。
- ②選手は、ガムを噛んだり、口の中に物を入れて出場してはならない。
- ③選手・モデルは控室以外で飲食してはならない。
- ④競技中、選手同士またはモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ⑤競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑥競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑦控室は、受付終了後から閉会式終了後まで、監視員以外出入りは禁止です。
- ⑧館内禁煙です。喫煙所以外での喫煙はしないでください。
- ⑨ゴミの持ち帰り、後片付けなど社会人としてのマナーをお守りください。

(1) 出場資格 有資格者

(2) 競技時間 ○衿とじの作業 控室にて . . . 25 分
○ボディ補整・長襦袢着付までの作業 控室にて . . . 20 分
○振袖着付・ひだ折り・帯結びの作業 競技ステージにて . . . 20 分

(3) 競技内容 通常成人式のとき用いられるもので、袋帯(六通または全通)を使用したもの。

(4) **競技方法** 競技は「衿とじ」の作業及び「ボディ補整・長襦袢着付」までの作業と「振袖着付・ひだ折り・帯結び」の作業に分けて行う。長襦袢着付までの作業は、監視委員の立会いの下に控室で行い、振袖着付・ひだ折り・帯結びの作業は、ステージ上で行う。

(5) **禁止事項**

- ①長襦袢及び振袖の衿とじ、重ね衿、伊達衿付けを事前に行うことは認めない。（ただし、長襦袢及び振袖の衿とじは、大会当日の朝、競技前に監視委員立会いの下で、ボディ補整・長襦袢着付の作業時間20分とは別に25分間で行う。その後、作業しやすいようにたたみ直すこと。）
- ②帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
- ③帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ④着物及び長襦袢のふり合わせは、とじてあってはならない。
- ⑤帯あげは縫ってあってはならない。
- ⑥極端に完成されたボディ補整用具の使用は認めない。
- ⑦ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはならない。
- ⑧帯のアクセサリーは認めない。
- ⑨おはしより芯の使用は認めない。
- ⑩袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑪ものさし類の使用は認めない。
- ⑫競技終了後、選手はボディに一切触れてはならない。
- ⑬助手の使用は一切認めない。（ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。）

(6) **制限事項**

- ①帯結びの型については、自由とする。（アレンジは可能）
- ②帯あげは、入りの字型とする。
- ③帯じめは、中心で結ぶこと。
- ④前身頃の衽の縫目と「おはしより」の縫目はそろえること。

(7) **衣裳類持込みに際しての禁止事項**

- 中 振 袖
 - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
 - ②芯を入れるなどの加工をしてはならない。
 - ③袖付にあて布があってはならない。
 - ④重ね衿、伊達衿は着物に付けてあってはならない。
 - 長 襦 袢
 - ①衿は、三河芯に半衿を付けたもの以外は認めない。その他、特別に考案・加工された、特殊な型式のものも認めない。
 - ②半衿は白無地とする。
 - ③上下セパレートのもの認めない。
 - ④巡礼衿は認めない。
 - ⑤後衿の力布はあってはならない。
 - 帯
 - ①特定のひだ折りの癖が強くつけられているものは認めない。
 - 着付小物
 - ①コーリンベルトの使用は認めない。
- ※競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

(8) **その他注意事項**

- ①ボディに肌着を着せておくこと。
- ②ボディの脚の長さを65cm～75cmとする。（百日草ボディ参考）
- ③足袋で審査を行う。事前に足袋はコットンなどを入れて形を整えてボディの台の上付けておくこと。
- ④アイロンは使用できない。
- ⑤控室に電源の設備はない。

- ⑥競技ステージへのボディの搬入は選手の手持ちとする。着付用具他は衣裳箱に入れて助手に持たせ係員の指示に従って搬入する。この時の助手は必ず入場券を購入しなければならない。
- ⑦競技ステージへボディ搬入後、競技前にチェック時間を設ける。
- ⑧競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑨審査中のボディのポーズは図のとおりとする。〔資料図参照〕
- ⑩競技時間内に出来てないもの（クリップの取り忘れ等）は未完成とする。

(9) 競技用具の準備（選手が準備するもの）

- (a) ①中振袖 ②重ね衿又は伊達衿 ③袋帯（六通または全通） ④着付用ボディ
 ⑤長襦袢（長襦袢の衿は三河芯にして、三河芯幅に半衿をつけたもの）
 ⑥帯じめ ⑦帯あげ ⑧衣装敷（並判） ⑨舞台競技用衣裳箱（氏名は裏に記入）
- (b) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、ゴム仮ひも（寿仮ひも可）、伊達巻き（2本）、ボディ補整用具（綿花、タオル、さらし又はガーゼ）、帯枕、帯板、カラーバンド又は輪ゴム、クリップ類、衿芯（長襦袢及び着物の衿用として和紙〈半紙、障子紙、奉書紙〉を使用のこと。ただし、折ってあってはならない。）」
- (c) 裁縫用具一式

(10) 審 査 技術性・調和性などを総合して審査を行う。

